

参考図書・おすすめ図書



『手話を生きる』
斉藤道雄(2016)みすず書房



『日本手話と日本語対応手話』
木村晴美(2011)生活書院



『ろう者から見た「多文化共生」』
佐々木倫子(2012)ココ出版



『ようこそろうの赤ちゃん』
全国ろう児をもつ親の会編(2005)三省堂



『小指のお母さん』
玉田さとみ(2011)ポプラ社



『きこえない子の心・ことば・家族』
河崎佳子(2004)明石書店

日本手話を学ぶなら



『はじめての手話』改訂新版
木村晴美・市田泰弘(2014)生活書院



『日本手話のしくみ練習帳』
岡典栄・赤堀仁美(2016)大修館書店

『お父さんお母さんのための手話文法講座』(BBED HP)

- ① http://www.bbед.org/move/index_vol01.html
- ② <http://www.bbед.org/move/index.html>

『ボランティアのための日本手話講座』(BBED HP)

<https://www.youtube.com/watch?v=XyDWNuH3afM&feature=youtu.be>

日本手話による教育とは

『手話単語つきスピーチからトランスランゲージングへ』

(『言語教育研究』2015年)佐々木 倫子

<http://www.meiseigakuen.ed.jp/top/more/trancelanguage.pdf>

ろう児の言語獲得を保障する 一言語学者ができることー

Ensuring language acquisition for deaf children: What linguists can do

(アメリカ言語学会刊行『ランゲージ』2014)

http://www.meiseigakuen.ed.jp/top/language/language_V90_v2_5.pdf



特定非営利活動法人 バイリンガル・バイカルチュラルろう教育センター
Bilingual Bicultural Education Center for Deaf Children

〒143-0016 東京都大田区大森北1-30-1 三喜屋ビル2階

ホームページ <http://www.bbед.org/> E-mail info@bbед.org tel/fax 03-5767-5057

聞こえなくても 大丈夫!

～コミュニケーション編～

子育ての手話を動画でチェック



聞こえない・聞こえにくい お子さんのお父さん、お母さんへ

お子さんの子育てや教育について、悩まれていることと思います。最近では、新生児スクリーニングによって、生後間もなく聞こえにくいと診断されるケースが増えてきました。しかし、早く診断されても、3ヶ月後、6ヶ月後の検査まで何の情報もなく不安な日々を過ごされる方もあるでしょう。一方、インターネットの普及によって様々な情報を得ている方もあるでしょう。ただ、ネット上にはあまりに多くの異なる意見や方法が紹介されているため、逆に何が良いのかわらなくなってしまうという方はいませんか。お子さんの子育てや教育を考えると、医師やろう学校の先生だけでなく、お子さんのロールモデルとなる聞こえない大人や聞こえにくい大人、大学生、高校生、中学生、小学生、そして乳幼児とその両親に会って話を聞いてください。可能なら、その人たちの通っているろう学校や一般校の様子も見せてもらうといいですね。

お子さんが成人するまで(もちろん成人した後も)共に歩んで行くのはお父さんとお母さんです。お医者さんでも学校の先生でもありません。専門家の中には、「保護者が混乱するので情報はあまり提供しない」という人や、0歳児や1歳児の保護者に「子どもが混乱するから教育方法を早く1つに決めた方がよい」と言う人もいます。でも、そうした人たちがお子さんの成長に責任を持ってく

れるわけではありません。幼稚部に入学するまでは、いろいろな場所で、多くの意見を聞いて、様々な体験をしてください。たくさん悩んで、話し合っ、その中から、お子さんとご家族に合った子育てや教育方法を見つけて行くことをおすすめします。

※以下、日本手話を母語とする聞こえない・聞こえにくい人を「ろう者(児)」、聞こえる人を「聴者(児)」と表記します。また、文中の「手話」は、日本語とは異なる文法構造をもつ自然言語で、ろう者の第1言語である「日本手話」を指します。日本語を話しながら手や指を動かす「手指日本語」や「日本語対応手話」ではありません。



もくじ

CONTENTS



聞こえにくい赤ちゃんは「目の人」です……………3

赤ちゃんの言葉の獲得……………4

- ・聞こえる赤ちゃん
- ・聞こえにくい赤ちゃん

人工内耳と自然手話……………6

聞こえにくい赤ちゃんを手話で育てる……………7

- ・日本手話と手指日本語
- ・赤ちゃんに伝える・伝わる方法
- ・聞こえないママやパパにお願い
- ・聞こえるママやパパにお願い

新米パパ・ママのQ&A……………9

- ・手話ができないけれど、どうやって接すればいい?
- ・手話で離れているのに、通じない
- ・叱り方がわからない

小さな子どもにわかりやすい日本手話……………12

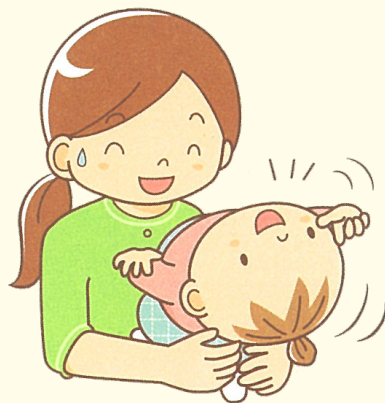
- ・子育てによく使うことば

聞こえなくても大丈夫……………14

聞こえにくい赤ちゃんは「目の人」です

ろう者は多くの情報を「目」で取り込みます。もし、音がない世界にろう者と聴者（聞こえる人）が迷い込んだとしたら、ろう者の方が周囲の環境から多くの情報を手に入れるでしょう。それは、聞こえにくい赤ちゃんも同じです。お子さんを抱いていると振り返って抱きにくいことがあ

りませんか。聞こえにくい赤ちゃんのお母さんの多くから、そうした話を聞きます。これをお医者さんに話すと自閉症や脳性麻痺を疑われますが、赤ちゃんの場合は「見たい（知りたい）」のです。首や腰がすわると前向き抱っこを喜んだり、添い寝をするとお母さんに背中を付けて寝る子もいます。



聞こえにくい赤ちゃんにとって、見えないものは無いことと同じです。生後すぐでも赤ちゃんの「視界」を意識して接するようにしてください。聞こえない赤ちゃんの子育てはアイ・コンタクト（目を合わせること）が基本です。赤ちゃんとも目が合っている状態で、あやしたり手話で話しかけたりします。抱き上げるときも背後からではなく、顔を見てから抱き上げるようにします。また、赤ちゃんのそばを離れるときに、何も言わずに離れてしまうと赤ちゃんは不安になります。「トイレに行くよ、戻ってくるまで待っててね」などと伝えてから離れます。はじめは理解できなくても繰り返すうちに、“お母さんはまた戻ってくる”とか“トイレに行ったんだ”とわかるようになって、赤ちゃんも安心して過ごせるようになります。聞こえる子どもの子育てでも、お母さんは言葉がわからない赤ちゃんにいろいろと話しかけますね。ろうの赤ちゃんにも同じように手話やジェスチャーでたくさん話しかけてあげてください。

赤ちゃんのことばの獲得

聞こえにくい子どもは言葉を覚えるのが遅いと言われますが、それは本当でしょうか。確かに、赤ちゃんのまわりが音声だけだとしたら、ことばの獲得は遅れます。しかし「言葉」は音声ではありません。ろう者には「手話」という言葉があります。聞こえにくい赤ちゃんのまわりに「手話」があれば、聞こえる赤ちゃんと同じように自然に言葉を身につけることができるのです。

聞こえる赤ちゃん

聞こえる赤ちゃんのまわりは音声で溢れています。大好きなお父さんやお母さんの声、お兄ちゃんやお姉ちゃんの声。おじいちゃんはおばあちゃん、おじさんやおばさん、近所のおばさん、スーパーのレジのお姉さん、テレビの音声、電車の中のアナウンス、街角に流れるクリスマスソングからお母さんに抱っこされながら聞くATMの音声案内など。聞こえる赤ちゃんは、生まれると同時に、目が覚めてから寝るまで、自分に話しかけられる声だけでなく、いつでもどこでも音による言葉を聞いているのです。

赤ちゃんは生後2ヶ月くらいから声を出し始めます。これはクーイングと呼ばれるもので、舌を使わずに、「あ〜」「う〜」などの母音を発声するものです。4〜5ヶ月になると「あうあう」「ばぶばぶ」という喃語（なんご）を話し始め、10ヶ月を過ぎると欲しいものがあるときに「あー」と声を出したりします。1才前後で「まんま」のような初語が現われますが、それまでの1年間、赤ちゃんは音声による言葉を膨大に聞き続けているわけです。



聞こえにくい赤ちゃん

赤ちゃんをとりまく「音声」を「手話」に変えれば、聞こえない赤ちゃんも聞こえる赤ちゃんと同じように言葉を身につけられることとなります。これを研究・実践しているのは、日本では私立ろう学校「明晴学園」の乳児クラス^(※1)だけです。ここでは、すべての教員とスタッフが日本手話で赤ちゃんに接します。特に0歳から2歳に合った手話表現を用いることが重要です。例えば、聞こえるお母さんは赤ちゃんに「入浴の後に水分の補給をします」とは言いませんね。「○○ちゃん、お風呂に入ろうね。ちゃぷちゃぷしたら美味しいジュースがあるよ」というように赤ちゃんに合わせた声かけをしているはず。このように年齢に合った言葉選びや話し方は、赤ちゃんの言葉や心を育てる上でとても大切です。

明晴学園では、家族全員が聞こえない・聞こえにくいデフファミリーの赤ちゃんの言葉の獲得を研究しています。乳児クラスの先生によると、早い子どもでは生後3～4ヶ月からお母さんの手話による呼びかけに反応するようになるそうです。反応の方法は、笑ったり、じっと見つめたり、まばたきをしたり、腕を動かしたり。ろう者のお母さんでも手話言語を勉強していないと気づかないかも知れません。5ヶ月になると手を「にぎにぎ」と動かす子どももいます。また、日本手話の文法に「うなずき」や「くびふり」があることから、デフファミリーの赤ちゃんは首を振る場面が多く見られ、聞こえる両親の赤ちゃんにはあまり見られないといえます。赤ちゃんを見ただけで両親がろう者なのか聴者なのかわかるそうです。面白いですね。

※1 明晴学園の乳児クラスは、2017年度から児童発達支援事業所「明晴プレスクール めだか」として0歳から2歳を対象に日本手話による言語指導を行っています。

ある程度の聞き分けができる音声を発するためには、口や舌や喉の筋肉の発達が必要です。手や指は、それより早く自由に動かすことができるので、赤ちゃんとの早期コミュニケーションとして今ではベビーサインが人気です。でも、まばたきや視線、うなずきといった日本手話文法の1つNMM(非手指標識)は、もっと早くから出せますね。つまり、日本手話を使った子育ては極めて早期から親子のコミュニケーションができるということです。

人工内耳と自然手話

これまで様々な機関で、口話と手話を併用した言語獲得の研究が行われ、良い結果も悪い結果も報告されて来ました。その理由について、コネチカット大学のリロマーティン教授が1つの結論を出しました。使用する手話の種類やレベル、頻度によって結果が左右されているというのです。人工的な手話(日本の場合は手指日本語や日本語対应手話)を使っていたり、提供する手話のレベルが低かったり、手話と接する回数が少ない場合、期待する結果は得られず、ネイティブのろう者が自然手話(日本では日本手話)で頻繁に接している場合は、良い結果が出ていることを突き止めました。両親のどちらかが自然手話のネイティブサイナー(ろう者)で、人工内耳と自然手話を併用したろう児の言語発達は高い結果が出ているそうです。

コロラド州の早期家族支援プログラム

人工内耳の活用が世界的に最も進んでいるとされるコロラド州には、CHIP(Colorado Home Intervention Program)とよばれる早期家族支援プログラムがあります。これは、聞こえにくい赤ちゃんが生まれた家庭に、早い時期からコーディネーターとよばれる担当者が

訪れ支援を進めるしくみで、この中にはアメリカ手話を教える専門スタッフも

います。手話のモデルは自然手話であるアメリカ手話で、これが聞こえにくい赤ちゃんの言語習得の基盤となります。支援プログラムは、平均して生後4か月から7歳で、他の地域ではみられない高い言語発達をとげることが確認されています。



©fumira

聞こえにくい赤ちゃんを手話で育てる

日本手話と手指日本語

日本で「手話」と呼ばれているものは、大きく分けると2種類あります。

(1) **日本手話**・・・ろう者の言語で、日本語とは異なる文法・構造をもつ独自の言語です。これは、ろう児が自然に身につけることができる唯一の言語です。手や指の動きだけでなく、眉の動きや目の見開き、うなずきや肩の位置といったNMM(Non-Manual Markers／非手指標識)や形や動きなどを表現するCL(Classifier／類別詞)といった文法要素があります。特に、乳幼児とのコミュニケーションにはNMMとCLが大切になります。

※この冊子の中で「手話」と表記しているのは、この「日本手話」です。

(2) **手指日本語(しゅしにほんご)**・・・日本語対应手話とか、手話つきスピーチなどと呼ばれることもあります。手指日本語は、文字通り日本語を手や指で表すもので聴者がつくったものです。日本語を話しながら手や指で単語を表すので、これは日本語です。声を出しながら手を動かすため、聞こえる人には分かりやすく「日本語対应手話」と呼ばれ一般に広がりました。手指日本語は、日本語を覚えてから失聴した中途失聴者や、大人になってから手話を学んだ聞こえない人にとっては、大切なコミュニケーション方法です。しかし、ろう児やろう者にとっては不自然でわかりにくく、ろう児の母語にはなりません。例えば、英語の語順に沿って日本語の単語を並べると似ています。

赤ちゃんに伝える・伝わる方法

最初にお話したように、聞こえにくい赤ちゃんを育てる上で一番大切なことはアイコンタクトです。どんなときでも、目を見ることから始まります。後ろから「〇〇ちゃ〜ん」と声をかけて抱き上げると、赤ちゃんにとっては突然からだが宙に浮くことになります。赤ちゃんから見えない場所でママとパパが会話をしていると、それはまったくわかりません。見える場所なら内容はわからなくても『何か話している』ことはわかります。ですから、いつでも赤ちゃんの視界に入っているかどうかを意識するようにしてください。

聞こえないママやパパにお願い

デフファミリーに多く見られるのが「大人の手話」による声かけです。ママやパパ自身が手話で育てられていない場合、どんな手話で話しかければ良いかわかりませんよね。赤ちゃんや小さな子どもに話しかけるときは、NMMやCLを強調してゆっくり話すことを心がけてください。聞こえる家族にはできない、豊かなコミュニケーションをとることができます。

聞こえるママとパパにお願い

聞こえない・聞こえにくいということに固執せず、まずは赤ちゃんをそのまま受け止めてあげてください。聞こえる人とは違う『目の力』を持った子どもたちです。そして、たくさんのろう者にとって積極的に手話で話をして、その様子を赤ちゃんにも見せてあげましょう。ママとパパが聞こえない人たちと楽しく手話で話している姿は、子どもの自己肯定感につながります。まわりのろう者は、聞こえない・聞こえにくい赤ちゃんを仲間として温かく迎えてくれるでしょう。『ろう社会に子どもを取られる』と感じるご両親もいるようですが、逆に『2つの言語と2つの文化をもつ家族』というプラスの考え方もあります。



新米パパ・ママのQ&A

Q.手話ができないけれど、どうやって接すればいい?

赤ちゃんが小さいときは、手話にこだわらず『見えるコミュニケーション』を意識してください。手話(手の動き)にこだわるあまり会話の内容が簡単になってしまうことがあります。もっと自由に大らかに、赤ちゃんに伝える方法を考えるのがいいと思います。

例えば、毎日何回もくりかえすオムツの交換のとき。オムツの上からお腹を軽くポンポンと叩いて、新しいオムツを見せてから交換すると、「オムツを替えるよ」の合図として、ママと赤ちゃんの会話が1つできたこととなりますね。

Q.手話で話しているのに、通じない

手の動きに固執していませんか。手話は、手や指の動きだけで通じる言葉ではありません。特に、赤ちゃんや小さい子どもに伝えるときはNMMやCLが必要不可欠です。ここでは、NMMの一部をご紹介します。手の動きが同じでもNMM(眉や目、あごなどの動き)によって意味が変わります。



行く



行く?

動画① 食べる、食べない、食べる?行く、行かない、行く?

QRコードにスマホをかざすと例文の動画を見ることができます。▷

パソコンで見える場合

<http://www.bbед.org/com/kosodate/nmm/>



形や動きを現すCL表現の例をご紹介します。一見ジェスチャーのように見えますが、文法としてのルールがあるため、ろう者に間違いなく通じます。



ころんだ!



どのグラスにしますか?

動画② 「ころんだ!」「どのグラスにしますか?」

QRコードにスマホをかざすと例文の動画を見ることができます。▷

パソコンで見える場合

<http://www.bbед.org/com/kosodate/cl/>



Q. 叱り方がわからない

子育てに限らず、叱り方や注意の仕方はとても難しいですね。叱る・注意する目的は、相手が間違いに気づいて行動を直すことですが、つい自分の感情や思いを一方的に押しつけてしまうことがあります。特に相手が、まだ言葉がよくわからないイヤイヤ期の乳幼児の場合、お母さんは大変です。聞こえない・聞こえにくいお子さんを叱るとき、こんな工夫をしてみてください。

★NMMとCLで話す(これは基本です)

例：コップの中に手を入れたとき

①しっかり目を見て、首を大きく横に振る

意訳『やってはいけませんよ』

②間違った行動をやって見せて、首を大きく横に振る

意訳『これは、やってはいけません』(確認)

③正しい行動をやって見せて、大きくうなずく

意訳『こうしようね』

動画③ やってみせよう!

QRコードにスマホをかざすと例文の動画を見ることができます。▷

パソコンで見える場合

<http://www.bbed.org/com/kosodate/shikaru/>



動画を少し解説します

①「しっかり目を見る」これは聞こえない・聞こえにくい子とコミュニケーションをとるときの基本です。「首を大きく横に振る」NMM(非手指標識)です。首の振り方や眉の上げ下げ、顎の位置などで意味が異なりますが、はじめは気にせず『それは、やってはいけません』という気持ちをこめて、首を大きく横に振ってください。



②「間違った行動をやって見せる」CLです。ここでは、コップの中に手を入れる様子をやって見せます。片手でコップの形を作り、もう一方の手を入れて見せます。やって欲しくない行動を見せます。

「首を大きく横に振る」NMMです。『やらないよ』という気持ちを込めて首を横に振ってください。

③「正しい行動をやって見せる」CLです。ここでは、コップを慎重に口に運ぶ様子をやって見せています。両手でコップを持って、視線をコップから離さず口に運びます。

「大きくうなずく」NMMですね。うなずきだけで何通りもの活用がありますが、はじめは気にせずに『これがいい行動だね』という気持ちをこめて、大きくうなずいてください。

お子さんが行動を止めて、お母さんをじっと見ていたら、最後にOKサインを見せるか、大きくうなずいてあげましょう。



小さな子どもにわかりやすい日本手話

最近では、聞こえにくい赤ちゃんを手話で育てたいという親御さんが増えました。それは、とても良いことだと思います。人工内耳をしても手話は必要と言われるほど、聞こえにくい人にとって手話は大切な言語だからです。言語と心を切り離すことはできません。確かな言語があるからこそ心や思考力が育つのです。

せっかく手話での子育てをするのですから、子どもたちに伝わりやすい方法がいいですね。聞こえない・聞こえにくい赤ちゃんの母語となる言語は日本手話です。日本手話と日本語(手指日本語)の何が違うのか、いくつかの例をご紹介します。

子育てによく使うことば

日本語は、「ご飯を食べる」「パンを食べる」「パスタを食べる」「バナナを食べる」…。すべて「食べる」という1つの言葉しか使いません。しかし日本手話では、それぞれに違う「食べる」を使います。一般動詞の「食べる」という表現もありますが、動詞には手段を含むものが多くあります。

「走る」「並ぶ」「倒れる」などの動詞も手段を含みます。「人が走る」と「犬が走る」、「人が並ぶ」と「車が並ぶ」、「人が倒れる」と「コップが倒れる」など、それぞれ違う言葉を使います。これが、ろう者の母語となる手話で、聞こえない・聞こえにくい子どもとの豊かなコミュニケーションを築くことができる言語です。



動画④

ご飯を食べる、パンを食べる、パスタを食べる、バナナを食べる、私が走る、犬が走る、人が並ぶ、車が並ぶ、人が倒れる、コップが倒れる

QRコードにスマホをかざすと例文の動画を見ることができます。▷

パソコンで見える場合

<http://www.bbed.org/com/kosodate/taberu/>



ポイント

ご両親が聞こえる人の場合、手話を使わなくちゃ!という思いが強すぎて単語を並べてしまいがちですが、小さな子どもには理解できません。聞こえないご両親の場合は、大人言葉や話し方で叱っている様子をよく見かけます。お子さんの年齢に応じた言葉や話し方を心がけましょう。叱るときこそNMMとCLです!

また、聞こえるお母さんは、長々と叱ってしまうことがあるようです。しかし、子どもは何に対して叱られているのか、どうすればいいのか?が、どんどん分からなくなってしまいます。叱ったり注意したりするときは、短くわかりやすく話すことも大切です。

聞こえなくても大丈夫(編集後記)

私の二男は生まれつき耳が聞こえません。夫も長男も私も聞こえる人です。二男は補聴器も人工内耳もなしに育ちましたが、現在19歳、きわめて健康、かつ、活発な大学生です。高校3年時には一人でフランス旅行をしてドキュメンタリー映画になりました。大学1年になると宿泊先の予約もせずカナダに出かけ、地元のデフ・コミュニティに入りひと月ほど泊まり歩いてきました。そんな事ができるのは、ろう者としてのアイデンティティと日本手話という母語があるからでしょう。私が日本語を母語とする日本人であるように、二男は日本手話を母語とする日本人のろう者なのです。そして、日本だけでなく世界のデフコミュニティの一員なのです。

編集人 玉田さとみ

